

大麦管理特報

令和 6年 4月 2日

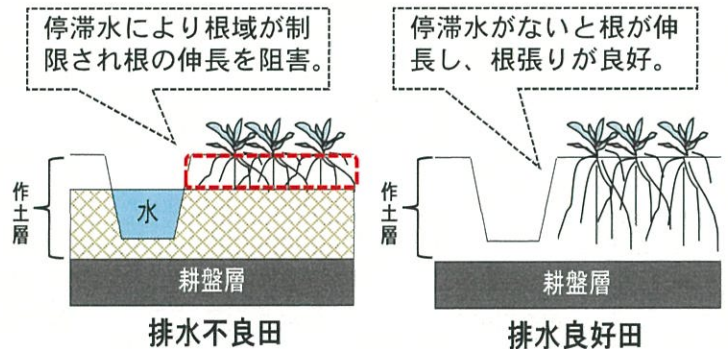
魚 津 市
魚津市農業技術者協議会

大麦の生育は、2月下旬～3月上旬の低温の影響でほぼ平年並みとなり、平坦地の出穂期の平均は4月16日前後になるとみられます。

しかし、生育のばらつきが大きく、登熟期間が長めになると予想されることから、赤かび病のリスクが高まるため、確実に防除してください。

1 排水対策の徹底

降雨や隣接ほ場からの漏水などの水がほ場内に停滞しないよう排水溝を手直しするとともに、水吐尻の連結と、排水口を掘り下げ、湿害の発生を防止しましょう。



2 赤かび病の防除

1回目は穂揃期、2回目はその7日後に、2回の防除を必ず行いましょう。

時期 散布方法	1 回 目 (穂揃期：全体の9割程度が出穂)	2 回 目 (1回目の7日後)
管理機	トップジンM水和剤 1000倍 150㍓/10a	ワークアップフロアブル 2000倍 150㍓/10a
ラジヘリ ドローン	トップジンMゾル 8倍 0.8㍓/10a	ワークアップフロアブル 16倍 0.8㍓/10a

注) 他の作物に農薬が飛散しないよう注意して散布しましょう

集 落 名	防除時期の目安【※】 (1回目)
木下新、東尾崎、蛇田	4月16日頃～
三ヶ、住吉	4月18日頃～
川縁、吉野、小川寺	4月20日頃～
大海寺野	4月21日頃～
鹿熊	4月22日頃～

【※】特報発行時点での予想であり、今後の気温の推移などにより、防除時期が前後する可能性があります。

ハマダイコン

3 雑草種子の混入防止

「カラスノエンドウ」や「ハマダイコン」などの種子が大麦に混入すると、選別が困難です。

ほ場内で見かけたら速やかに抜き取るとともに、畦畔周辺の草刈りや除草剤の散布を行い、ほ場内への侵入を防ぎましょう。

